

尾ノ上の風

第7号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

1学期 終業式を迎えて～健康・安全な夏休みを～

早いもので今日19日に終業式を迎え、1学期が終わります。5・6年生は67日、4年生以下は66日の授業日がありました。4月に先生や友達との新しい出会いがあり、毎日の学習や行事を通して、お互いに学び合って成長をすることができたと思います。721人全員の通知表には、担任や指導にあたった先生方からの成長の気づきやアドバイスがしっかりと書かれていました。

今年の夏休みは例年より1週間短いですが、子どもたちには、夏休みだからこそできる体験や学習に取り組んで欲しいと思います。2学期に向けての学習のおさらいもぜひとも取り組んでほしいと思います。8月26日の始業式に元気な表情で登校する子どもたちを待ちたいと思います。

学校安全対策協議会・老公連オバパト隊連携会議

夏休みを前に、東署や防犯協会、交通安全協会、青少協、民児協、消防団、PTAの方々に集まっていただき、学校安全対策協議会を開きました。また、老人クラブ連合会、公民館、オバパト隊の連携会議にも出席しました。どちらも校区の子どもたちの安全を守るために、熱心に情報交換をしてくださいました。子どもたちを安心・安全な環境で守ろうという、関係の皆様のお気持ちにあらためて尾ノ上校区の力のありがたさを感じました。

校内研修「外国語活動」

新学習指導要領が改訂され、来年度から小学校はそれにそって授業を行います。読者のみなさんも外国語活動や特別の教科「道徳」、プログラミング教育などの言葉は聞かれたことがあると思います。ここでは詳しくは述べませんが、一番の大きな改訂は、「社会に開かれた教育課程の実現」です。よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくるという理念を学校と社会が共有するというものです。

学校では、新学習指導要領の全面実施に向けて、まず先生たちも勉強を進めています。また、熊本市では、主体的・対話的な授業改善のために、電子黒板やタブレット端末（iPad）などのICT機器が導入されて、その使い方、活用の仕方も学んでいかななくてはなりません。そのために、校内研修といって先生たちも研修会を開いて学びあう時間をとっています。

先週、5年生の外国語活動の授業を全職員で参観して、指導法や効果的なICTの活用について学びました。講師には、元尾ノ上小学校長の長尾校長（楠小学校長）を招いて、いろいろアドバイスをいただきました。本校には、文科省の「英語教育強化地域拠点事業」に取り組んできた財産があります。今後も職員で研修を重ねながら、指導力をつけていく予定です。



タブレットを使いながら友達と英語で交流する様子

こんにちは！お仕事&授業拝見7 通級指導教室 井上先生編

本校には、通級指導教室があり他校からも通っているお子さんがたくさんいます。基本的に通級指導は子どもと1対1の指導です。

井上先生の授業を拝見しました。今回は、今年から通級に通い始めたお子さんなので、様子を見ながら授業スタイルに慣れることに重点を置いて、修正されているそうです。とにかく、シャワーのようにたくさんの褒める言葉がけをされ、子どもが具体的にイメージして行動できるような指示や学習方法を示し、一つ一つを学んでいくことができるなど感じました。指導が1分の無駄もなく展開されていて、

「①トレーニング ②国語 ③お話タイム ④振り返り」の4つの活動を用意されていました。

授業の中に一見すると遊びやゲームのように見える活動を取り入れ、コミュニケーション力を高めているそうです。その際に、うまくいかなかったときには黙って自分勝手に行動させるのではなく、必ず子どもに「相手にどう伝えたらいいか」を実際の言葉にさせて表現をさせておられました。この日の授業では、子どもは「集中する」学習を具体的な活動の中で学んでいました。また、「伝える力」も1時間の中で何度も何度も繰り返していました。授業後、感想を子どもに尋ねると「楽しかった」とすっきりした表情で答えてくれたことから、子どもにとって充実した1時間だったことが分かりました。



1対1の授業の様子



井上 恵美子 (いのうえみこ)先生 尾ノ上小3年目

【井上先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

小学校1年生のときに担任していただいた先生がとってもすてきだったからです。

とてもやさしい先生で、私のあこがれでした。その先生との出会いがきっかけで、小学校の先生になりました。

こんにちは！お仕事&授業拝見8 ひまわり学級 徳永先生編



パソコンで自学する様子(上)
実物投影機で学習する(下)

ひまわり学級(1年3年)の徳永先生の国語の授業を拝見しました。始めると子どもたちが植物の名前を言っていきました。ホトケノザと言う名前が出ると、分からない表情をしたので、先生はすぐにiPadで検索して画像を見せて紹介しました。そして、あいうえ口の体操で、植物の名前をリズムに合わせて発音させ、はっきりしない発音の時は言い直しをさせながら口の体操へすなりと活動し始めました。

この後、机の配置を変えて、1年生と3年生に分かれて授業。3年生はパソコンを使って漢字の学習。読み方や熟語そして用例を音読するなど自分で進める学習スタイルが身についています。同時並行で1年生の3人は先生と一緒に国語の教科書の音読に入りました。私も複式学級の指導の経験がありますが、片方の学年を指導するときはもう一方は子どもで進めなくてはならないので、自学の習慣を育てていくのが大切です。1年生3人に音読を1文字ずつ読むように活動させているときに、3年生の漢字の書き順を先生が確認し、漢字練習帳に書かせました。次は、先生が3年生に付いて教科書を音読します。わからない言葉は辞書で引かせていました。さらに、1年生がプリント学習に入ると、実物投影機で効果的にテレビに映しながら確認をさせました。片方の学年に意識を配りながら、もう一方の学年に指導したり声かけたりと、子どもも指導者も大変濃密な1時間の授業でした。



徳永 智子 (とくながともこ)先生 尾ノ上小4年目

【徳永先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

スイミングのコーチになろうと思っていたのですが、高校のとき大学祭を見て教育学部に行きたくくなりました。アルバイトでスイミングを子どもたちに教えていたことや教育実習に行ったら教える楽しさや子どもとの関わりに面白さを見つけて、教師になろうと思いました。